

新潟県立看護短期大学卒業生・修了生の動向

飯吉令枝, 小林美代子, 斎藤智子, 平澤則子,
佐々木美佐子, 高橋初美, 小林恵子

新潟県立看護短期大学

Working Situation of the Graduates of Niigata College of Nursing

Yoshie IYOSHI, Miyoko KOBAYASHI, Tomoko SAITOH, Noriko HIRASAWA,
Misako SASAKI, Hatumi TAKAHASHI, Keiko KOBAYASHI

Niigata College of Nursing

Summary The purpose of this study is to find and report on the working situation of the graduates of Niigata College of Nursing(NCN), and to discover how these graduates are developing their nursing careers in order for NCN to improve the support of graduates in advancing their nursing careers. A survey was distributed to the graduates of the Course of Nursing at NCN(CN), the Advanced Course for Community Health Nursing at NCN(ACCHN), and the Advanced Course of Maternity Nursing at NCN(ACMN). The survey was distributed to 950 graduates of NCN, representing 207 Course of Nursing graduates, 144 Advanced Course for Community Health Nursing graduates, and 34 Advanced Course for Maternity Nursing graduates.

The results, based on 385 respondents (40%), are as follows :

- 1) After the graduation, 90% of the graduates from the CN and the ACCHN found employment as nurses and public health nurses, respectively. Of the graduates of the ACMN program, 60% were employed as midwives.
- 2) Eighty percent of the respondents graduated from CN, 70 percent from ACCHN, and 80 percent from ACMN have been working as nurses, public health nurses, and midwives respectively since they started working.
- 3) Ninety percent of all respondents have participated in some nursing trainings, and many of them have plans to participate in further trainings and the Congress of Nursing afterwards.
- 4) The respondents' requests to NCN regarding their career advancement include opening the library and other such facilities on Sundays and releasing information about nursing to them.

要約 本研究の目的は、卒業・修了後の動向とキャリアアップの実態を把握し、今後の本学における卒業・修了生への支援のあり方について考えることである。新潟県立看護短期大学卒業生・修了生950人を対象に質問紙調査を実施し、看護学科207人、専攻科地域看護学専攻（以下、地域とする）144人、専攻科助産学専攻（以下、助産とする）34人から回答が得られた。

結果は次のようである。

- 1) 卒業・修了時点では、看護学科、助産のそれぞれ9割が看護師、助産師として、地域の6割が保健師として就職していた。
- 2) 現時点では、看護学科の約8割が看護師、地域の約7割が保健師、助産の約8割が助産師として就職していた。
- 3) キャリアアップのために9割が「研修会」の受講を実施し、今後も「研修会」の受講を考えている人が多かった。
- 4) キャリアアップに向けて当大学に期待することは、「専門分野に関する情報提供」、「休日の図書館などの施設開放」が多かった。

Key Words 看護短期大学看護学科 (Course of Nursing at College of Nursing)
専攻科地域看護学専攻 (Advanced Course for Community Health Nursing)
専攻科助産学専攻 (Advanced Course of Maternity Nursing)
卒業生の動向 (Working situation of the Graduates)
キャリアアップ (Career development)

I はじめに

わが国の保健・医療・福祉サービスを取り巻く環境は急速に変化し、それに伴う看護職の業務内容や看護教育も変化してきている。特に看護教育に関しては質の向上を目指し、大学や大学院での教育の強化がなされてきている。平成6年4月に開学した新潟県立看護短期大学も、平成17年3月に看護大学への移行に伴い閉学する。平成16年3月までの看護学科卒業生は792人、専攻科地域看護学専攻修了生は312人、専攻科助産学専攻修了生は103人を数えるが、卒業・修了後の実態はこれまで明らかにされていなかった。

看護労働において、看護職が一人一人の自立性を高めることによって看護に責任を持ち、専門領域の知識・技術をより高めることが今後さらに重要になってくるといわれている¹⁾。また、就業意識を支えていくためには、キャリアアップなどをどのように考えていくかということがこれからの大きな課題となっている²⁾。

そこで、このたび卒業・修了生を対象に、卒業・修了後の就業状況等の動向とキャリアアップの実態を把握し、今後の本学における卒業・修了生への支援のあり方について考えることを目的として調査を行った。

II 研究方法

1. 調査対象および方法

平成9年3月から平成16年3月までに新潟県立看護短期大学看護学科を卒業した792名、平成10年3月から平成16年3月までに新潟県立看護短期大学専攻科を修了した415人のうち、看護学科から専攻科に進学した192人と助産学と地域看護学の2つの専攻科を修了した2人、及び住所不明の63人を除く合計950人を対象とした。

調査は無記名による郵送自記式質問紙調査とし、調査の目的や記入事項に関するプライバシー保護について紙面にて説明し、承諾の得られた人から個別に回収した。調査期間は平成16年9月から10月である。

2. 調査内容

卒業・修了年度、出身地、卒業・修了時点の就職・進学状況（就職の際の職種、就職先、就職先の都道府県、進学先）、就職を決めた理由、転職・再就職・退職

状況とその理由、現在の就職状況（就業職種、就業形態、就職先）、仕事の満足度、キャリアアップのために行ってきたこと、今後キャリアアップのために行きたいこと、看護の専門職として行ってきた社会活動の有無、編入・大学院への進学希望の有無等である。

3. 分析方法

データの集計、分析には統計ソフトSPSS11.0J for Windowsを用い、検定は χ^2 検定を行った。

III 結果

回収数は385人（回収率40.5%）であった。内訳は看護学科207人（回収率26.1%）、専攻科地域看護学専攻（以下、地域とする）144人（回収率66.3%）、専攻科助産学専攻（以下、助産とする）34人（回収率33.0%）であった。

1. 対象者の属性

卒業・修了年度は表1のとおりであった。

出身地は、看護学科、地域、助産共に新潟県が最も多く、全体で279人（72.5%）、次いで隣県の富山県18人（4.7%）、長野県17人（4.4%）、群馬県14人（3.6%）であった。

表1 卒業・修了年度別回収数

	看護学科	地 域	助 産
8年度	11(5.3)		
9年度	29(14.0)	17(11.8)	2(5.9)
10年度	28(13.5)	21(14.6)	2(5.9)
11年度	18(8.7)	22(15.3)	10(29.4)
12年度	21(10.4)	27(18.8)	3(8.8)
13年度	36(17.4)	18(12.5)	6(17.6)
14年度	22(10.6)	16(11.1)	6(17.6)
15年度	30(14.5)	22(15.3)	4(11.8)
不明	12(5.8)	1(0.7)	1(2.9)
全 体	207(100)	144(100)	34(100)

人(%)

2. 卒業・修了時点の就職・進学状況

看護学科では他の大学、短大専攻科等への進学29人（14.0%）、就職167人（80.7%）、その他3人（1.4%）、不明8人（3.9%）であった。地域では進学1人（0.7%）、就職143人（99.3%）、助産では就職33人

(97.1%)、その他1人(2.9%)であった。

卒業・修了時点で他の大学、短大等に進学した人の進学先は養護教諭特別別科10人(地域1人を含む)、専門学校8人、大学編入7人、他大学専攻科5人であった。

他の大学、短大専攻科等に進学した人も含めて初めて就職した職種は、看護学科では看護師185人(91.6%)が最も多く、次いで保健師5人(2.5%)、助産師5人(2.5%)であった。地域では保健師89人(61.8%)、看護師53人(36.8%)、助産では助産師31人(91.2%)、看護師2人(5.9%)の順であった。就職先は、看護学科では一般病院152人(75.6%)、大学病院35人(17.4%)、地域では保健所・市町村76人(52.8%)、一般病院43人(29.9%)、助産では一般病院30人(88.2%)、大学病院2人(5.9%)の順となっていた。就職した県は新潟県が最も多く、看護学科116人(56.0%)、地域91人(63.2%)、助産22人(64.7%)であった。全体で新潟県に次いで多かったのは、東京37人、富山16人、長野14人で、北海道から福岡までの24県に就職していた。

3. 就職を決めた理由

複数回答による就職を決めた理由は、全体では「専門性を身につけたい・生かしたい」170人(44.2%)、「出身地である」149人(38.7%)の順に多かった。

看護学科では「出身地である」87人(43.3%)、「専門性を身につけたい・生かしたい」67人(33.3%)、「卒業教育が充実している」67人(33.3%)の順で多かった。地域では「専門性を身につけたい・生かしたい」87人(60.8%)、「出身地である」54人(37.8%)、「通勤に便利」47人(32.9%)、助産では「専門性を身につけたい・生かしたい」16人(47.1%)、「卒業教育が充実している」10人(29.4%)の順に多かった。(表2)

地域では「専門性を身につけたい・生かしたい」「年齢制限」で就職を決めている人の割合が多く、看護学科では「卒業教育が充実している」で就職を決めている人の割合が多かった($p < .05$)。

助産では「奨学金の就業義務」で就職を決めている人の割合が多かった($p < .05$)。

4. 転職・再就職・退職状況

転職・退職をした人は看護学科で54人(26.1%)、地域で26人(18.1%)、助産で9人(26.5%)であった。

表2 就職先を決めた理由

	看護学科	地域	助産	全体
専門性を身につけたい・生かしたい	67 (33.3)	87 (60.8)	16 (47.1)	170 (44.2)
卒業教育が充実している	67 (33.3)	23 (16.1)	10 (29.4)	100 (26.0)
福利厚生が充実している	34 (17.0)	21 (14.7)	7 (20.6)	62 (16.1)
給与がよい	32 (15.9)	7 (4.9)	4 (11.8)	43 (11.2)
奨学金の就業義務	13 (6.5)	5 (3.5)	8 (23.5)	26 (6.8)
年齢制限	1 (0.5)	6 (4.2)	0 (0.0)	7 (1.8)
通勤に便利	52 (25.9)	47 (32.9)	3 (8.8)	102 (26.5)
出身地である	87 (43.3)	54 (37.8)	8 (23.5)	149 (38.7)
知名度が高い	34 (16.9)	12 (8.4)	6 (17.6)	52 (13.5)
職場の雰囲気がよい	25 (12.4)	12 (8.4)	5 (14.7)	42 (10.9)
先輩がいる	12 (6.0)	3 (2.1)	4 (11.8)	19 (4.9)
以前実習したことがある	18 (9.0)	1 (0.7)	4 (11.8)	23 (6.0)
その他	25 (12.6)	25 (17.6)	7 (20.6)	57 (14.8)

人(%)

転職した人のうち最初に就職してから1回目に転職するまでの期間は、卒業最小で1年から最大で8年までの期間で、卒業3年で転職した人が25人(24.5%)と多かった。

転職・再就職の理由で多かったのは、看護学科では「出身地である」14人、「専門性を身につけたい・生かしたい」13人、地域では「専門性を身につけたい・生かしたい」9人、「出身地である」9人、助産では「出身地である」2人であった。

5. 現在の就職状況

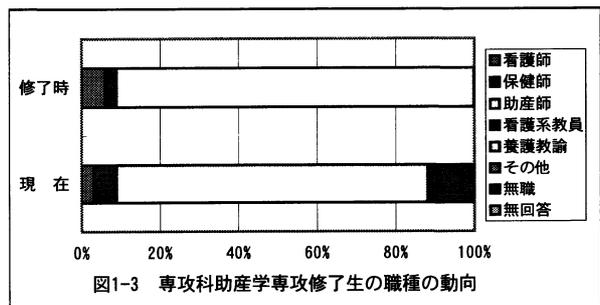
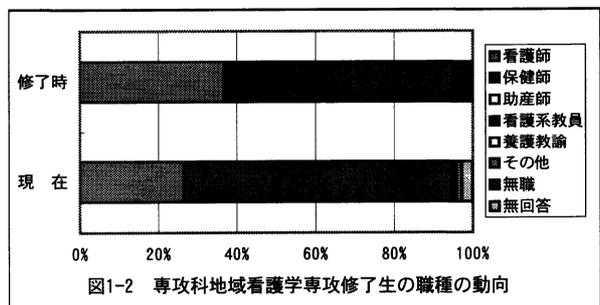
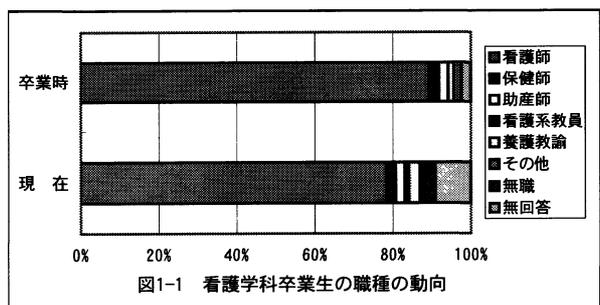
現在の職種は、看護学科では看護師162人(78.3%)、地域では保健師98人(68.1%)、助産では助産師27人(79.4%)がそれぞれ最も多かった。卒業・修了時に比べて、看護学科では看護師の割合が減少し、看護系教員、養護教諭等や無職になっている人がおり、地域では保健師が増加していた。助産では無職になっている人もおり、助産師の割合が減少していた。全体では現在の職種は、看護師201人、保健師105人、助産師33人、看護系教員2人、養護教諭7人、その他4人であった。(表3、図1-1、-2、-3)

就業形態は、どの学科も現在働いている人では正規採用が最も多く、看護学科164人(91.1%)、地域131人

表3 現在の職種

	看護学科	地域	助産	全体
看護師	162(78.3)	38(26.4)	1(2.9)	201(52.2)
保健師	5(2.4)	98(68.1)	2(5.9)	105(27.3)
助産師	5(2.4)	1(0.7)	27(79.4)	33(8.6)
看護系教員	2(1.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(0.5)
養護教諭	6(2.9)	1(0.7)	0(0.0)	7(1.8)
その他	2(1.0)	2(1.4)	0(0.0)	4(1.0)
無職	6(2.9)	0(0.0)	4(11.8)	10(2.6)
無回答	19(9.2)	4(2.8)	0(0.0)	23(6.0)

人(%)



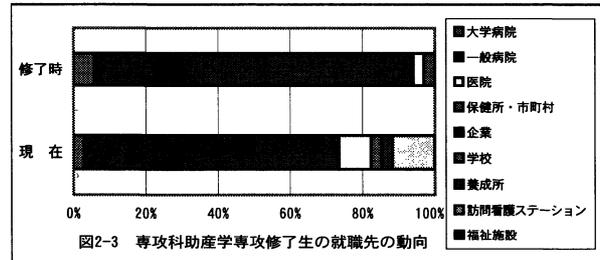
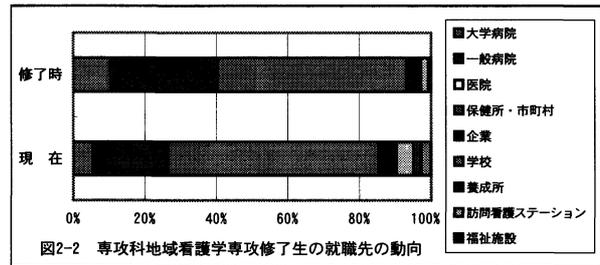
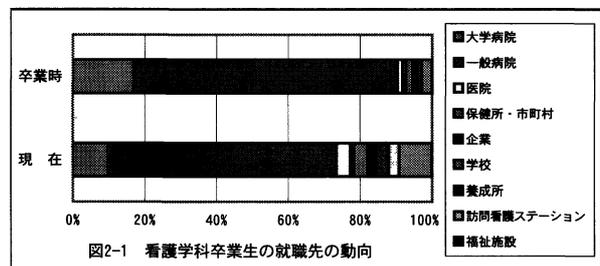
(93.6%)、助産30人(100.0%)であった。

就職先は、看護学科では一般病院132人(63.8%)、大学病院20人(9.7%)、地域では保健所・市町村85人(59.1%)、一般病院29人(20.3%)、助産では一般病院24人(70.6%)、医院3人(8.8%)の順に多かった。卒業・修了時に比べてどの学科も大学病院、一般病院に勤める割合が減少し、看護学科では学校や福祉施設、地域では保健所・市町村や企業及び訪問看護ステーション、助産では医院、保健所・市町村に勤める割合が増加していた。(表4、図2-1、-2、-3)

表4 現在の就職先

	看護学科	地域	助産	全体
大学病院	20(9.7)	8(5.6)	1(2.9)	29(7.5)
一般病院	132(63.8)	29(20.3)	24(70.6)	185(48.1)
医院	8(3.9)	1(0.7)	3(8.8)	12(3.1)
保健所・市町村	2(1.0)	85(59.1)	1(2.9)	88(22.9)
企業	0(0.0)	6(4.2)	0(0.0)	6(1.6)
学校	8(3.9)	1(0.7)	0(0.0)	9(2.3)
養成所	2(1.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(0.5)
訪問看護ステーション	0(0.0)	7(4.9)	0(0.0)	7(1.8)
福祉施設	3(1.4)	0(0.0)	0(0.0)	3(0.8)
その他	7(3.4)	3(2.1)	1(2.9)	11(2.9)
無職	6(2.9)	0(0.0)	4(11.8)	10(2.6)
無回答	19(9.2)	4(2.8)	0(0.0)	23(6.0)

人(%)



6. 現在の職場の満足度

職場の満足度を職種別に見ると、現在看護師をしている人では、「満足している」「まあ満足している」を合わせた「満足」が108人(54.9%)、「不満である」「やや不満である」を合わせた「不満足」が37人(18.8%)であった。現在保健師をしている人では、「満足」が80人(76.2%)、「不満足」が6人(5.8%)、現在助産師をしている人では、「満足」が17人

(53.1%)、「不満足」が8人(25.0%)、その他の職種の人では、「満足」が8人(75.0%)、「不満足」が2人(16.7%)であった。(表5)

表5 現在の職場の満足度

	看護師	保健師	助産師	その他
満足している	20 (10.2)	26 (24.8)	4 (12.5)	3 (33.3)
まあ満足している	88 (44.7)	54 (51.4)	13 (40.6)	5 (41.7)
どちらともいえない	52 (26.4)	19 (18.1)	7 (21.9)	1 (8.3)
やや不満である	22 (11.2)	3 (2.9)	4 (12.5)	2 (16.7)
不満である	15 (7.6)	3 (2.9)	4 (12.5)	0 (0.0)

人(%)

7. キャリアアップのための実施状況と今後の実施予定

複数回答による今までにキャリアアップのために行ってきたことは、全体では「研修会の受講」332人(91.7%)が多かった。看護師では「研修会の受講」181人(90.0%)、「看護研究の実施」105人(52.2%)、保健師では「研修会の受講」100人(95.2%)「学会への参加(発表を伴わない)」46人(43.8%)、助産師では「研修会の受講」31人(93.9%)、「看護研究の実施」18人(54.5%)、その他の職種の人では「研修会の受講」20人(87.0%)が多かった。(表6)

表6 キャリア・アップのために行ってきたこと

	看護師	保健師	助産師	その他	全体
研修会の受講	181 (90.0)	100 (95.2)	31 (93.9)	20 (87.0)	332 (91.7)
資格の取得	11 (5.5)	21 (20.0)	5 (15.2)	2 (8.7)	39 (10.8)
看護研究の実施	105 (52.2)	27 (26.0)	18 (54.5)	8 (34.8)	158 (43.6)
学会への参加(発表あり)	30 (14.9)	10 (9.5)	2 (6.1)	2 (8.7)	44 (12.2)
学会への参加(発表なし)	84 (41.8)	46 (43.8)	15 (45.5)	8 (34.8)	153 (42.3)
学士の取得	7 (3.5)	4 (3.8)	1 (3.0)	3 (13.0)	15 (4.1)
学位の取得	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
その他	8 (4.0)	7 (6.7)	2 (6.1)	0 (0.0)	17 (4.7)

人(%)

「看護研究の実施」では看護師、助産師が実施している割合が高く、「資格の取得」では保健師が実施している割合が高かった(p<.05)。

複数回答による今後キャリアアップのために行きたいことは、全体では「研修会の受講」286人

(79.0%)、看護師では「研修会の受講」148人(73.6%)、「学会への参加(発表を伴わない)」64人(31.8%)、「看護研究の実施」57人(28.4%)、保健師では「研修会の受講」92人(87.6%)、「資格の取得」33人(31.4%)、「学会への参加(発表を伴わない)」30人(28.6%)、助産師では「研修会の受講」31人(93.9%)、「資格の取得」13人(39.4%)、「学会への参加(発表を伴わない)」13人(39.4%)、その他の職種の人では「研修会の受講」15人(65.2%)、「学会への参加(発表を伴わない)」7人(30.4%)が多かった。(表7)

表7 今後キャリア・アップのために行なっていきたいこと

	看護師	保健師	助産師	その他	全体
研修会の受講	148 (73.6)	92 (87.6)	31 (93.9)	15 (65.2)	286 (79.0)
資格の取得	44 (21.9)	33 (31.4)	13 (39.4)	3 (13.0)	93 (25.7)
看護研究の実施	57 (28.4)	14 (13.3)	10 (30.3)	5 (21.7)	86 (23.8)
学会への参加(発表あり)	27 (13.4)	18 (17.1)	6 (18.2)	1 (4.3)	52 (14.4)
学会への参加(発表なし)	64 (31.8)	30 (28.6)	13 (39.4)	7 (30.4)	114 (31.5)
学士の取得	23 (11.4)	9 (8.6)	7 (21.2)	3 (13.0)	42 (11.6)
学位の取得	7 (3.5)	6 (5.7)	2 (6.1)	2 (8.7)	17 (4.7)
その他	5 (2.5)	7 (6.7)	2 (6.1)	1 (4.3)	15 (4.1)

人(%)

今後行っていきたいことでは、「研修会の受講」をし、行きたい割合が保健師、助産師で高く、「看護研究の実施」をしていきたい割合が保健師で低かった(p<.05)。

また看護師で「看護研究の実施」をしている人は実施していない人に比べて現在の職場に「満足」と答えた人の割合が低かった(p<.05)。

8. 社会活動状況

卒業・修了してから看護専門職として看護協会の委員やボランティア等の社会活動を行ったことがある人は、看護師で10人(5.2%)、保健師で34人(33.0%)、助産師で7人(21.2%)、その他の職種の人で0人であった。社会活動を行っている割合は保健師では高く、看護師では低かった(p<.05)。

9. キャリアアップに向けて大学への希望

複数回答による自分自身のキャリアアップのために

表8 キャリアアップのために大学に希望すること

	看護師	保健師	助産師	その他	全体
現場との共同研究	34(16.9)	29(27.6)	5(15.2)	2(8.7)	70(19.3)
教育指導者の派遣・助言指導	27(13.4)	39(37.1)	3(9.1)	3(13.0)	72(19.9)
専門分野に関する情報提供	89(44.3)	67(63.8)	19(57.6)	9(39.1)	184(50.8)
休日の図書館等の施設開放	97(48.3)	50(47.6)	22(66.7)	11(47.8)	180(49.7)
身近な相互交流	20(10.0)	20(19.0)	6(18.2)	6(26.1)	52(14.4)
社会人継続教育の実施	65(32.3)	50(47.6)	13(39.4)	2(8.7)	130(35.9)
中・長期研修コースの設置	63(31.3)	28(26.7)	16(48.5)	6(26.1)	113(31.2)
その他	3(1.5)	1(1.0)	0(0.0)	2(8.7)	6(1.7)
					人(%)

当大学に期待することは、看護師では「休日の図書館などの施設開放」97人(48.3%)、「専門分野に関する情報提供」89人(44.3%)であった。保健師では「専門分野に関する情報提供」67人(63.8%)、「休日の図書館などの施設開放」50人(47.6%)、「社会人継続教育の実施」50人(47.6%)、助産師では「休日の図書館などの施設開放」22人(66.7%)、「専門分野に関する情報提供」19人(57.6%)、「中・長期研修コースの設置」16人(48.5%)、その他の職種の人では「休日の図書館などの施設開放」11人(47.8%)の希望が多かった。(表8)

職種別でみると、「教育指導者の派遣または助言指導」「専門分野に関する情報提供」「社会人継続教育の実施」では保健師に希望している割合が高く、「身近な相互交流」では看護師に希望している割合が低かった($p<.05$)。

また、助産師では「専門分野に関する情報提供」を希望する人は現在の職場に「満足」と答えた人の割合が高かった($p<.05$)。

10. 編入・大学院への進学希望の有無

大学に編入学することを希望している人は、全体で26人(7.1%)であり、看護師では18人(9.0%)、保健師では3人(2.9%)、助産師では4人(12.1%)、その他の職種の人では1人(4.3%)であった。そのうち本学に編入学することを希望している人は、看護師では12人(66.7%)、保健師では2人(66.7%)、助産師では4人(100.0%)、その他の職種の人では1人(100.0%)であった。

大学院への進学を希望している人は、全体で34人(9.5%)であり、看護師では16人(8.1%)、保健師では10人(9.5%)、助産師では6人(18.2%)、その他の職種の人では2人(9.0%)であった。そのうち本学大

学院への進学を希望している人は、看護師では12人(75.0%)、保健師では10人(100.0%)、助産師では6人(100.0%)、その他の職種の人では2人(100.0%)であった。また、どの領域を希望するかについては、看護師では「成人看護学」3人(30.0%)、「基礎看護学」「小児看護学」「精神看護学」2人(20.0%)、保健師では「地域看護学」7人(70.0%)、助産師では「母性看護学」6人(100.0%)であった。

IV 考察

1. 卒業・修了生の就職状況

卒業・修了時点では看護学科91.6%、助産91.2%がそれぞれ看護師、助産師として就職しており、地域では61.8%が保健師として就職していた。現時点では看護学科で看護師78.3%、地域で保健師68.1%、助産で助産師79.4%と、他の短大等^{3)~6)}に比べてそれぞれの割合は高く、学科の専門分野での就業をしている状況がうかがえる。

また平成13年度看護白書⁶⁾によると、看護短大の県内への新卒者の就職割合は65.4%であり、本調査でもほぼ同じ傾向がみられた。県立の短大であり、県内出身者が多く県内への就職志向の人も多いと思われる。

「平成14年産業労働事情調査の概要—サービス業特定20業種—」によると、今の就職先を選んだ理由として医療・福祉関連では第1位「通勤に便利だから」、第2位「資格・技能が活用できるから」、第3位「仕事の興味があったから」となっている⁷⁾。本調査では「専門性を身につけたい・生かしたい」「出身地である」が就職先を選んだ理由の上位にあげられていた。特に地域と助産の専攻科では、就職先を選んだ理由として「専門性を身につけたい・生かしたい」が多かった。専攻

科では保健師・助産師の資格を取るために1年間学んできているため、それを生かした職業の選択が最も多くなっているものと思われる。

転職・退職では、2割前後の人が転職・退職し、その理由として「専門性を身につけたい・生かしたい」「出身地である」をあげていた。これは日本看護協会中央ナースセンターの調査²⁾の結果と同様の傾向であるといえる。結婚・子育てを理由にあげている人もおり、生活スタイルの変化に伴う通勤や勤務体制の変更が必要になったり、より自分自身の専門領域を生かせる条件の職場を求めたりしている状況がうかがえる。

就業意識を支えるものとして①労働条件、②労働環境、③働きがいの3つがあり、仕事の継続をうながしていく上で大切なのは「働きがいのある魅力ある職場づくり」であるともいわれている²⁾。看護の質の高い魅力ある職場は、看護者の職務満足度の向上につながると考えられる。卒業・修了生のうち現在の職場に「満足」と答えた人は、看護師として働いている人で54.9%、保健師として働いている人で76.2%、助産師として働いている人で53.1%、その他の職種で働いている人で75.0%であった。今後はこの満足度をよりあげていくことができるように自己の専門性を高めたり職場の改善を図ったりして質の高い職場作りをしていくことも必要であると考ええる。

2. キャリアアップに向けての実態と今後の課題

田中は⁸⁾、看護職にとってのキャリアアップとは、「専門的な訓練を受けた人間として、生涯にわたり、その専門領域に携わりながら能力を自己開発し続けること」と述べている。本調査の卒業・修了生はキャリアアップのために「研修会の受講」を全体で9割以上の人が実施しており、さらに看護師、助産師では5割以上の人が「看護研究」を実施していた。また今後については「研修会の受講」を全体で約8割の人が実施していきたいと答えており、保健師、助産師では、3～4割の人がさらに専門性を深めるために必要な「資格の取得」を考えていた。目指す専門性がはっきりしてくることで、よりキャリアアップへの意識付けがされるものと考えられる。

キャリアアップに向けて大学に編入をした人、今後編入を考えている人は全体で1割程度であった。また今後大学院への進学を考えている人も全体で1割程度であり、愛知県下の看護職員への調査⁹⁾の大学院修士課程にすぐに進学したい、条件が整えば進学したいと

いう進学希望群26%に比べて進学希望の割合は低いといえる。この愛知県での調査⁹⁾では、進学を考え始める年齢層が22歳から30歳ころに集中しており、多くの看護職が職場で看護実践や看護研究を体験する中で、看護の専門能力を向上させたいと願い、それが進学ニーズに影響していると述べている。本調査の対象者も同様の年代層であり、「専門的な学問の習得」を希望する人は多いと思われるが、本県では1年前まで看護系の大学院が設置されていなかったため、大学院ではどのような教育や研究をしているところなのか、どのようにすれば入れるかなどの情報が十分周知されていないことも進学希望の割合が低い要因になっていると推測される。今後公開講座や社会的活動等を通じて卒業・修了生に対して大学や大学院の実態を周知していくことも重要であると考ええる。

大学への要望として、天谷ら¹⁰⁾は「現場との共同研究」「教育指導者の派遣・助言指導」「専門分野に関する情報提供」「休日の図書館等の施設開放」「身近な相互交流」「社会人継続教育の実施」「中・長期研修コースの設置」をあげている。本調査でも自分自身のキャリアアップに向けて大学に「専門分野に関する情報提供」「休日の図書館等の施設開放」を希望する人が半数近くみられた。兼宗ら¹¹⁾は看護職の継続教育に対するニーズは高く、自主的なキャリア開発ができるように継続教育に関する情報をデータベース化し、情報提供するサービスも必要であると述べている。卒業・修了生がそれぞれキャリアアップできるような環境整備が今後さらに必要であると考ええる。

V 結論

新潟県立看護短期大学の卒業生・修了生の就業状況等の動向及びキャリアアップについて調査した結果、次のような特徴が明らかになった。

- 1) 卒業・修了時点では、看護学科、助産学専攻科のそれぞれ9割が看護師、助産師として就職し、地域看護学専攻科の6割が保健師として就職していた。
- 2) 就職を決めた理由は「出身地である」「専門性を身につけたい・生かしたい」が多かった。
- 3) 現時点では、看護学科の約8割が看護師、地域の約7割が保健師、助産の約8割が助産師として就職していた。
- 4) キャリアアップのために全体の9割が「研修会の

受講」を実施していた。

- 5) キャリアアップのために今後行っていきたいことは、「研修会の受講」が多かった。
- 4) キャリアアップに向けて当大学に期待することで「専門分野に関する情報提供」「休日の図書館などの施設開放」が多かった。

謝 辞

本調査にご協力いただきました卒業生・修了生の皆様に深く感謝いたします。

引用文献

- 1) 照沼則子, 櫻井美鈴: 看護労働の現在 III 看護労働のあり方, 平成16年版看護白書, 日本看護協会出版会, 東京, 78, 2004
- 2) 阿部俊子: 看護労働の現在 IV 就労意欲の向上を支えるシステムづくり, 1看護における就業意識と満足度調査, 平成16年版看護白書, 日本看護協会出版会, 東京, 91-99, 2004.
- 3) 大西文子, 北村真弓, 久納智子他: 約30年間の藤田保健衛生大学衛生学部衛生看護学科卒業生の就業状況, 日本看護医療学会雑誌, 1(1), 19-26, 1999.
- 4) 荒賀直子, 木矢村静香, 星志寿子: 地域看護専攻科における保健師教育の検討 - 修了生の調査から -, 順天堂医療短期大学紀要, 14, 230-235, 2003.
- 5) 鈴木幹子, 鈴木美恵子: 武蔵野赤十字助産婦学校および日本赤十字武蔵野女子短期大学専攻科卒業生の動向調査, 日本赤十字武蔵野女子短期大学紀要, 8, 154-160, 1995.
- 6) 菊池令子: 看護職員の需給見通しと就業動向 - 看護マンパワーの課題は「量から質へ」 -, 平成13年版看護白書, 日本看護協会出版会, 東京, 17-35, 2001.
- 7) 厚生労働省大臣官房統計情報部: 平成14年産業労働事情調査の概況-サービス業特定20業種-, <個人調査> II-2, 今の企業を選んだ理由, 2003.
- 8) 田中彰子: 看護労働の現在 IV 就労意欲の向上を支えるシステムづくり, 2 キャリアアップを支える看護管理, 平成16年版看護白書, 日本看護協会出版会, 東京, 100-112, 2004.
- 9) 平井きよ子, 海老真由美, 山田聡子他: 看護職の大学院への進学ニーズに関する調査, 愛知県立看護大学紀要, 8, 33-40, 2002.
- 10) 天谷真奈美, 宮地文子, 吉田伸子他: 保健師の研究活動と大学への支援ニーズに関する検討, 日本看護研究学会雑誌, 25(3), 400, 2002.
- 11) 兼宗美幸, 長谷川真美, 横山恵子他: 看護師の継続教育に対する大学の支援の検討 - 看護師の学習ニーズと継続教育情報の調査から -, 埼玉県立大学短期大学部紀要, 5, 81-88, 2003.